

米倉教公の週間為替市場見通し

3/7 日週号

ドル/円予想レンジ 111.00 - 115.00 円

『今週の目玉は ECB の追加緩和！』

■前週の市場動向

前週のドル/円の週足では、下影陰線で終了した。週初は中国株が大幅に下落したことでリスク回避の円買いが強まった。翌1日は円買いドル売りが先行したが、中国当局が預金準備率を引き下げたことで中国株が堅調推移したことや米経済指標が良好だったことでドルの買い戻しが強まった。2日には一時114.55円まで上昇し、ダブルボトムのネックライン114.87円を超えトライとなったが、上値の重さを嫌気した売りが優勢となった。3日は日本株の上昇を好感してリスク回避の動きが後退し一時114.26円まで上昇した。しかし、米2月ISM非製造業景況指数の雇用項目がさえない結果となったことで、ドル売りが強まった。しかし、前日のドル安値113.18円が意識され113.27円で下げ止まった。4日は良好な2月米雇用統計を受けてドル買いが加速し、一時114.25円まで上昇した。ただ、前日の114.27円が意識されると一転113.12円まで下落した。その後は米長期金利が上昇したことで再び114.25円まで上昇したが114円台を維持出来ずに終了した。

■今週の注目点：今週の目玉は ECB 定例理事会での追加緩和

欧州では2月の消費者物価指数が前年同月比で▲0.2%とデフレ傾向が強まっている。ドラギ ECB 総裁は、1月の前回定例理事会の記者会見で追加緩和を示唆していたが、マイナスに落ち込んだ物価指数からも、ほぼ追加緩和は実施されるものと思われる。前回12月の追加緩和では、市場から失望を招いたことから、今回の緩和策では、預金金利の10bpを超える引き下げと合わせて資産買入れ枠を月額600億ユーロから700億ユーロに拡大が予想される。ECBが追加緩和した場合、日銀も次の緩和に動きやすくなる。中国では5日から16日まで全国人民代表大会（全人代）が開催されるが、前週後半にかけて全人代に向けて、人民元や中国株の安定化に向けた動きが観測された。中国市場が安定化するとリスク選好の動きになりやすい。

■テクニカル的な見解

3月1日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+52,734から+59,625へとさらに円の買い持ちが増加し、2008年3月以来で最大となった。円の買い持ちが増加していたことで、ストップロス絡みで円が下落しやすくなった可能性がある。前週では上値を切り下げ・下値を切り上げてきていることで三角持ち合いの形になってきた。ダブルボトムのネックラインとなる2月16日の高値114.87円を上抜けると投機筋からのストップロスの投げが入りやすく円安が加速する可能性がある。一方で、前週は週足で下影陰線（下位に出た場合はやや慎重に）となり、下落を暗示するロウソク足となった。上値目途は2日高値114.55円、2月16日高値114.87円や1月20日安値115.96円となる。下値の目途は1日の安値112.13円、2月24日の安値111.03円や2月11日の安値110.96円となる。が意識される目途となる。



★先週の気になる出来事

ドナルド・トランプ候補は、実は民主党クリントン陣営が共和党を攪乱するために送り込んだスパイではないかと、ワシントンポストやCNN、BBCなどが昨年末以来、相次いで報じている。元々民主党支持者であるトランプ氏は同党の牙城とも言えるNYに住み、民主党に多額の資金を献金してきた。クリントン夫婦とも仲が良い。ビル・クリントンとはゴルフ仲間だ。まさに『トロイの木馬』を地で行く驚天動地の大作戦ではないか？これが本当なら映画俳優以上の演技力だ。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。